

本報告書を提出するに当たり、PIC シンボルを中心に多くの資料を作成しました。

報告書掲載に際し、PIC シンボルの使用を快く認めていただいた、日本 PIC 研究会の藤澤和子先生、ピクトプリントに関して掲載を認めていただいた株式会社コムフレンドの塩見さんにお礼申し上げます。

以下に、PIC シンボルに関して簡単な説明をいたします。

PIC シンボル

PIC は、Pictogram Ideogram Communication という3つの単語の頭文字をとったもので、普通「ピック」と発音します。最初のピクトグラムとは、具体的な絵単語のことで、次のイデオグラムは、少々抽象性の高い絵単語を指します。たとえば、「電話」や「車」などのことばは、そのまま絵で簡単に表すことが可能ですが、「愛情」といった抽象名詞や、「泳ぐ」や「欲しい」などの動詞、「冷たい」といった形容詞などはそうはいきません。そこで、多少の約束事をして、抽象的に絵に示したものが、イデオグラムです。PIC では、大きく分けてこの二つに分類できる400あまりの絵単語を使用して、コミュニケーションしていくことになります。(以下略)

(視覚シンボルによるコミュニケーション: 日本版 PIC 1995 ブレーン出版より抜粋)

「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則 (JIS T0103)」に収載されている絵記号例

経済産業省は、2005年4月20日に、「コミュニケーション支援用絵記号デザイン原則 (JIS T0103)」の規格を制定しました。

この規格は、文字や話し言葉によるコミュニケーションの困難な人が、自分の意思や要求を相手に的確に伝え、正しく理解してもらうことを支援するための絵記号に関する日本工業規格 (JIS) です。